

第8回京都フィルムメーカーズラボ (Kyoto Filmmakers Lab 2015) 結果報告

平成 27 年 12 月 18 日
京 都 文 化 博 物 館



京都フィルムメーカーズラボは、国内・海外の若手映画製作者を対象にして、東映京都撮影所、松竹撮影所のオープンセットを使い、短編時代劇作品を製作するワークショップ（公用語は英語）。時代劇セット、美術、照明、衣裳など本編映画と同じ施設・道具を使用し、京都伝統の本格的時代劇を体験するワークショップです。また、これにより、内外の若手映画作家間のネットワーク形成を支援します。

8回目を迎えた今回から、従来の前記ハンズオン時代劇に加え、東京国際映画祭と共催になるレクチャー「マスターズセッション」を新設しました。東京国際映画祭に参加する多彩なゲストを講師として招き、トークサロンとして交流の場も設けました。

応募状況は、web 公募＜2015年7月28日～9月18日＞の結果、50カ国140名の応募がありました。審査の結果、18カ国から外国人27名（うち日本在住7名）、日本人13名の若手作家40名が審査を通過。それぞれの出身国は日本、台湾、アメリカ、イギリス、インド、オーストリア、カナダ、ガボン、シンガポール、スイス、スロヴァキア、タイ、ネパール、フィリピン、ブラジル、フランス、マレーシア、ルーマニアとなりました。

＜ハンズオン時代劇＞

石原興氏（映画監督／松竹）、安藤清人氏（照明監督／東映）監修による Hands-on 形式の時代劇製作を10月25日～28日の4日間に渡って東映京都撮影所、松竹撮影所、京都文化博物館を会場に時代劇製作ワークショップを開催。

＜マスターズセッション＞

10月28日～30日まで、大江能楽堂、旧武徳殿、NHK京都放送局、京都文化博物館を会場に、実技の殺陣講座を含め9つのセッションを開催。

宿泊については、京都百万遍の知恩寺を合宿所とし、参加者全員が泊まりこむ合宿形式をとりました。

主 催： 京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会

[京都府、東映株式会社京都撮影所、株式会社松竹撮影所、京都文化博物館、立命館大学、
京都文化博物館、株式会社東映京都スタジオ、巖本金属株式会社]

共 催： 第28回東京国際映画祭実行委員会、KYOTO Cross Media Experience 実行委員会

運営主体： NPO 法人映像産業振興機構

特別協力： ディレクターズ・ユニブ

1 参加者募集

期 間： 2015年7月28日(火)～9月18日(金)

方 法： web ページからの申込み(3分以内の自作サンプルはDVDディスクで事務局まで郵送)

応募件数： 140名

国籍内訳：日本21人、インド15人、アメリカ12人、ネパール10人、フィリピン9人、ポーランド9人、フランス4人、インドネシア4人、イギリス3人、マレーシア3人、ブルガリア(以下2人/国)、カナダ、イラン、メキシコ、ルーマニア、セルビア、シンガポール、スロヴェニア、スペイン、タイ、ベトナム、台湾(以下1人/国)、アルバニア、アルゼンチン、チリ、オーストリア、ブラジル、コロンビア、クロアチア、日本/チェコ、ガボン、ハンガリー、イタリア、リトアニア、ルクセンブルグ/フランス、オランダ、ニュージーランド、パキスタン、ペルー、ルーマニア/カナダ、ロシア、スコットランド、スロヴァキア、スロヴェニア/ドイツ、スウェーデン、スイス/ポルトガル/カーボベルデ、タンザニア、ハワイ/日本、アメリカ/メキシコ

2 参加者審査

審査日： 2015年9月26日(土)

会 場： 京都文化博物館 7階会議室

審査員： 高橋剣氏(東映京都撮影所)、中嶋等氏(松竹撮影所)

審査通過： 40名

内 訳：

・外国人26名(うち日本在住6名)、日本人14名。

<日本、台湾、アメリカ、イギリス、インド、オーストリア、カナダ、ガボン、シンガポール、スイス、スロヴァキア、タイ、ネパール、フィリピン、ブラジル、フランス、マレーシア、ルーマニア、ポーランド>

・男性28名、女性12名。

※審査通過者のうち3名がビザ取得不可等の理由でキャンセル。その他1名のキャンセルが出たが、うち3名は次候補としていた応募者がその穴を埋める形で参加。またマスターズセッションには2013年のラボ参加者であるアルゼンチンのルース・オルランド・ブレナンがオブザーバーとして参加。

最終的には38名が参加した形でのワークショップになった。

3 シナリオ選考コンペ、監督選考と参加者撮影担当分け

シナリオ選考コンペと採用シナリオについて：

- ・参加者から、3分を目処に作品シナリオを公募した結果5本のシナリオの提出があった。
- ・内容、使用可能セット・俳優等の条件から以下のシナリオを選出。開催8回目にして初めての東映・松竹2チームの競作となった。

『Heart of Sword』 Hannah Espia (ハンナ・エスピア/東映チーム)

ハンズオン時代劇については評価点上位20名より、撮影担当分けについては評価点と参加者の希望を勘案して割り振った。

【東映チーム】 スーパーヴァイザー：安藤清人氏(照明監督)

Matthew Gentile/マシュー・ジェンティル(監督/アメリカ)、Thim Kian Cheng/ティム・キアン・チェン(製作/マレーシア)、Hannah Espia/ハンナ・エスピア(美術/フィリピン)、Kenji

Nakashima／中島賢二（助監督／日本）、Hiroki Kataoka／片岡大樹（助監督／日本）、Tomohiro Ogishi／大岸智博（照明／日本）、Shuhei Settsu／攝津周平（照明／日本）、Rodney Ndong-Eyogo／ロドニー・ドン・エヨゴ（録音／ガボン）

【松竹チーム】 スーパーヴァイザー：石原興氏（映画監督）

Patiparn Boontarig／パティパーン・ブータリグ（監督／タイ）、MARK PAUL LIMBAGA／マーク・ポール・リンバガ（撮影／フィリピン）、Victor Villanueva／ヴィクター・ヴィラヌエヴァ（美術／フィリピン）、Grace Simbulan／グレース・シンブラン（照明／フィリピン）、Koichiro Kuriki／栗城弘一郎（助監督／日本）、Denis Cordier／デニス・コーディエル（製作／フランス）、Ken Yoshizumi／善積健（照明／日本）、Yano Akie／やの あきえ（製作／日本）、Jim Ballard／ジム・バラード（助監督／イギリス）

【マスターズセッションからの参加者】

Chen-Chieh Hsu／チェン・チー・シュ（台湾）、Davi de Oliveira Pinheiro／ダヴィ・デ・オリヴェイラ・ピンheiro（ブラジル）、Manu Bogad／マヌ・ボガード（オーストリア）、Takeaki Yamashita／山下武昭（日本）、Marc Menish／マーク・メリッシュ（アメリカ）、Yuki Tsuruoka／鶴岡由貴（日本）、Toshimi Ono／小野淑美（日本）、Minami Nakatsuka／中塚みなみ（日本）、Michelle Kim／ミシェル・キム（カナダ）、Susan Xu／スーザン・シュ（アメリカ）、Jason Lau／ジェイソン・ラウ（アメリカ）、Kyle McCloskey／カイル・マククロスキー（アメリカ）、Christopher McCarthy／クリストファー・マッカーシー（アメリカ）、Nic Wassell／ニック・ワッセル（イギリス）、Yukari Morishita／森下友加里（日本）、Andrej Farba／アンドレ・ファーバ（スロバキア）、Anish Dedhia／アニシュ・デヒア（インド）、Aurélien Lainé／オーレリエン・レイネ（フランス）、Kano Kajiwara／梶原香乃（日本）

4 育成ラボ日程

■Hands-on Jidaigeki

10月25日（日） 13:00～14:00

【1】オリエンテーション 会場：東映京都撮影所

参加者、撮影所スタッフそれぞれの自己紹介およびラボ全体の概要と、移動・宿泊やその他注意点などを説明。

14:00～18:00

【2】プリプロダクション・ミーティング 会場：松竹撮影所、東映京都撮影所

各チームに分かれ、使用スタジオ、セット等を確認後、撮影・演出プランの打合せ。



【合宿場所風景】

合宿所は京都百万遍の知恩寺。



10月26日（月）、27日（火）8:00～18:00

【session3】 作品撮影 会場：松竹撮影所・東映京都撮影所
東映チーム・松竹チームに分かれて2日間で作品撮影。





10月28日(水) 11:00~11:30

【session 4】ラッシュ上映 会場：京都文化博物館 フィルムシアター
ハンズオン時代劇で撮影した各チームの素材をラッシュ試写。



■ マスターズセッション

10月27日(火) 14:00~18:00

【ハンズオン時代劇撮影見学会】 会場：松竹撮影所・東映京都撮影所
ハンズオン時代劇の撮影現場を、マスターズセッションからの参加者とマスコミ関係者等が見学。



10月28日(水) 12:00~14:30 - クローズド・セッション、英語のみ

【session1】Filmmaker Lightning Talk 会場：京都文化博物館 フィルムシアター

次世代のマスター=参加 Filmmaker40名が自国の今の映画文化、実績、次作、夢を語る。
各自3分のトーク。<参加者数 19カ国、68名>



14:45~16:15 - オープン・セッション、逐次通訳

【session 2】Golden Harvest 日本の映画職人によるトーク 会場：同上

映画監督原田真人氏によるトーク。<参加者数 19カ国、72名>



16:30~17:30 -オープン・セッション、英語のみ

【session 3】YouTube、ウェブはあなたの才能を待っている 会場：同上

Google 社 YouTube Spaces アジア太平洋統括部長のデービッド・マクドナルド氏と YouTuber のアンソニー・ナイト氏によるトーク。<19カ国、72名>



18:00~19:00

【レセプション】会場：京都文化博物館 別館ホール

京都ヒストリカ国際映画祭、京都映画企画市、京都フィルムメーカーズラボの合同レセプション。



10月29日(木)

10:30~12:00 - クローズド・セッション、逐次通訳

【session 4】Golden Harvest 会場：京都文化博物館 フィルムシアター

「映画の音は誰に聴こえているか？／映画のサウンドデザイン」音楽家岸野雄一氏によるトーク
<19カ国、48名>



13:30~15:00 - セミクローズド・セッション、学生招待、逐次通訳

【session 5】Cross-media Talk 会場：大江能楽堂

クロスメディア時代の日本でサバイバルする若手作家によるトーク。<19カ国、52名>

第一部 井上ジェット氏 (CGCGスタジオHD株式会社、KyotoFilmmakersLab2012参加者、アニメ『銀魂』演出、ゲーム『戦国BASARA2』STORYBOARD ARTIST、「稲城なしのすけ」キャラクターデザイン)

第二部 辻本貴則氏 (2011年京都映画企画市『Battle of Kyoto〜未来特区ネオウズマサ〜』監督、『THE NEXT GENERATION パトレイバー』監督、テレビ『ウルトラマンX』監督)



15:45~16:45 - クローズド・セッション、逐次通訳

【session 6】殺陣講座 会場：旧武徳殿

東映京都撮影所の殺陣師により京都の殺陣の精神とスタイルを体験した。<19カ国、38名>





10月30日(金) 10:00~12:00 - オープン・セッション、同時通訳

【session 7】TIFF Special 会場：大江能楽堂

「アジア映画の現在、未来-世界のなかのアジア映画」

TIFF アジアの未来部門、日本映画スプラッシュ部門の審査員を招いてのシンポジウム。

<パネリスト>

ジェイコブ・ウォン氏 (香港国際映画祭キュレーター、TIFF アジアの未来審査員)

オリビエ・ペール氏 (アルテ・フランス・シネマ CEO、TIFF アジアの未来審査員)

大森立嗣監督 (映画監督、TIFF アジアの未来審査員)

ジーン・ホアン氏 (映画監督、台北映画祭、TIFF 日本映画スプラッシュ審査員)

マーク・ペランソン氏 (ロカルノ映画祭プログラマー、TIFF 日本映画スプラッシュ審査員)

田中まこ氏 (神戸フィルムオフィス代表)

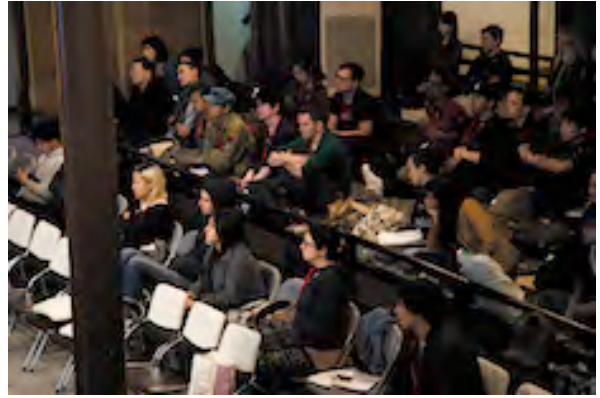
<19カ国、78名>



13:30~14:30 - オープン・セッション、同時通訳

【session 8】インディーズの未来 会場：大江能楽堂

「インディーズの未来」 Indy Tokyo を主宰する大寺眞輔氏によるトーク。 <19カ国、76名>



15:00~17:00 - オープン・セッション、逐次通訳

【session 9】MPTE Special -Cutting Edge Japan- 会場：NHK 京都放送局

NHK 京都放送局で 8K 映像等最新動向を紹介。映画テレビ技術者協会共催。<19 カ国、38 名>

